

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 市民・公明クラブ

【全体的事項】

1. 視察日程 平成28年 11月14日（月）～16日（水）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）寄付型クラウドファンディングについて（山口県山口市）
 - （2）松蔭先生のことば朗読など郷土の歴史を活かした教育（山口県萩市）
 - （3）道の駅 視察（山口県）
3. 視察参加議員
小野周一 下山准一 高橋富美子 佐藤卓也 山科正仁

【具体的事項】

調査事項（1）

寄付型クラウドファンディングについて（山口県山口市）

人口：197,422人 面積：1,023.23km²

（視察事項）

- ・「寄付型クラウドファンディング」を行うまでの経緯や期待される効果と今後の課題について
- ・山口市ふるさと創生推進事業補助金とふるさと納税制度との相乗効果について

■視察日時 平成28年11月14日（月）
午後2時45分 ～午後4時30分

■所 感

山口県山口市では、『共創』をテーマに地方創生への取り組みとして、山口市内外の人々から広く『共感』を得られ、地域の活性化や地域課題の解決に向けて取り組まれる地方創生に資する新たな事業資金を応援するために、「山口市ふるさと創生推進事業補助金」を創設しました。この制度では、基本の補助金に加えて、ふるさと納税制度を組み入れた寄付型クラウドファンディングによって集まった寄付金を基準に、寄付者の意思を反映した応援補助金を事業者に交付する仕組み

です。補助金の内容としては、「しごと創生事業」、「ひとの流れ創生事業」、「結婚・出産・子育ての希望に応える環境創生事業」の3分野の事業で、活動に係る必要な経費の一部について、「基本補助金」と「応援補助金」を合わせて、市の予算の範囲内で補助金を交付します。補助率は、補助対象経費の3分の1以内とし、補助限度額は、事業分野により100万円から300万円と分かれております。

また、ふるさと創生推進事業補助金を起こす前に、「KAIKAふるさと納税」や、一年前に山口県企業による「クラウドファンディング運営会社を設立しております。この運営会社は、山口銀行・山口大学・MOT総合研究所が大学や地域発ベンチャー企業等の創業者輩出を加速させる取り組みを展開し、地域の特徴を生かした産業及び雇用の創出を促すことで、山口県内の産業振興と地域経済の発展に寄与することを目的として

「包括的連携協定」を締結し、山口銀行・山口大学・MOT総合研究所・山口県内の事業に賛同した企業（18社）が銀行出資及び県内企業の出資による「クラウドファンディング運営会社」を立ち上げ、機運を盛り上げました。この事業を行うときは、理解をしてもらえないのがかなり難し



く2ヶ月間で目標金額の5%しか集まらず、起業が自ら周知するなど生みの苦しみが多々ありました。しかし、寄付の用途を細かくしないことや制限を少なくすること、ホームページを通じて沢山の方に衆知を徹底することにより改善し、ほとんどの事業がプロジェクト達成率を100%にすることができました。ふるさと納税は、各自治体において沢山の返礼品での競争が行われていますが、過度の返礼品率によりふるさと納税自体の意味が失われつつあります。その中で、寄付した方が控除を受けられるものの、返礼品にとらわれず純粹に寄付するという本来の姿が見える仕組みと考えられました。新庄市においても、「新庄まつり」や「伝統工芸の育成」などに取り入れ新たなふるさと納税の仕組みとして取り組んでいけるものと感じました。

調査事項（2）

松蔭先生のことば朗読など郷土の歴史を活かした教育（山口県萩市）

人口：50,220人 面積：698.31km²

（視察事項）

松陰先生の言葉の朗読・松蔭読本を活用した松蔭教学、
志を育てる教育の取り組みと効果について

■視察日時 平成28年11月15日(火)
午前 9時00分 ~ 12時00分

■所 感

明倫小学校は藩校明倫館跡地に開校されたものであり、第五代藩主毛利吉元が享保2年(1719年)堀内に創設し、第十三代藩主敬親が嘉永2年江向に移転。昭和10年(1935年)10月明倫小学校旧校舎が落成し、平成26年(2014年)3月新校舎に移転しました。創立131年の伝統ある小学校であり、明倫とは孟子の「人倫を明らかにする」「人の道を説く」から付けられました。明倫教育の基底として、成徳達材(心を育て、才能を伸ばす)・進取の気風・松蔭先生の教育精神の尊重(松蔭教学)があります。松蔭教学には、立志・子弟同行・知行合一(実際の行動に移すことの大切さ)・個性の伸長(人賢愚あれと雖も各々一二の才能なきはなし)・憤悱啓発(動機付け、意識付けの大切さ)・至誠(松蔭先生のことばの朗唱、松蔭読本)を柱としております。特徴的なこの松蔭先生のことばの朗唱は、今から36年前の昭和56年度から始まっており、朗唱は大きな口をあげ、正しい身なり、正しい姿勢で行っております。ことばの朗唱の狙いは、

①激動を生き抜いた、教育者、兵学者である郷土の先覚者吉田松蔭先生に誇りを持ち、郷土を愛する心を育てる、②松蔭先生の生き方に学び、より高い自己現実への意欲を高める、③早朝の朗唱により、心の安定を図り、落ち着いた気持ちで学習へ取り組む意欲を高める、④「松蔭先生のことば」と道徳の内容項目を対応させ、道徳の時間をはじめとしたすべての教育活動の中で、松蔭の生き方やことばを



自分の行動の判断基準の一つとして生活することを通して生きる力をはぐくむ。としております。朗唱する内容は、①人の本性の善なること、新年をもって正しく生きることに関する物(6文)、②人としての生き方に関するもの(2文)、③親を敬う心に関するもの(1文)、④読書に関するもの(5文)、⑤立志に関するもの(2文)、⑥友情に関するもの(1文)、⑦勤労に関するもの(1文)を6年間の各学級学期で、卒業するまでに18文を朗唱します。又、松蔭読本は萩市立小学校4年生に無償で配布され、内容は「松蔭先生がどんな人物であり、どういう生き方をし、新しい日本の国ができていう上にどんな影響を及ぼしたのかということを読本で学び取っていただきたい」としてしております。改めて吉田松蔭先生は、誰よりも人を愛し、国を愛し、至誠を貫いた偉大な先達であったと思います。

全国的にも力を注いでいるのがキャリア教育の推進であり、新庄市においても次代を担う子供たちに、ふるさとの先人や偉人、豊かな自然、価値のある歴史、そして伝統的な文化や産業をもっと学んでいただく機会を増やし、誇りに思える新庄市にしていかなければならないと再確認いたしました。

調査事項（3）

道の駅 視察（山口県）

（視察事項）

道の駅での物販状況について

■視察日時 平成28年11月14日（月）～16日（水）

道の駅 ①「仁保の郷」（山口県山口市） ②「萩しーまーと」（山口県萩市）

③「ハピネスふくえ」（山口県萩市）

④「うり坊の郷k a t a m a t a」（山口県萩市）

⑤「津和野温泉なごみの里」（島根県津和野町）

⑥「ゆとりパークたまがわ」（山口県萩市） ⑦「阿武町」（山口県阿武町）

⑧「萩往還」（山口県萩市） ⑨「きらら あじす」（山口県山口市）

■所 感

道の駅は現在全国に1107箇所設置しており、様々なアイデアを出し展開しております。新庄市においても平成27年3月にしに政策提言を行っており、いち早い設置を目指しております。道の駅の機能として、広域的な防災拠点として高度な防災機能を分担や、地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能、地元業者と共に加工品を開発する六次産業機能など多岐にわたり、どのような役割を持たせるべきか検討を重ねる必要があります。道の駅をただ建設するのではなく、地方創生・地域活性化のための知恵を絞り、考えていかなければなりません。そのため、平成5年道の駅発祥の地「阿武町」や道の駅6選に選ばれている「萩しーまーと」などを訪ねてきました。各所において様々なアイデアやお土産商品を開発し、特徴をしっかりとだしております。又、必ず地元の産直を置き、物産の振興に寄与しているのが分かりました。設置については、指定管理者制度や第3セクター方式などがありますが、公共施設としての役割や民間としての役割をしっかりと踏まえ、官民が連携していき、地域活性化として活用していかなければならないと感じました。